

研修名	支援を必要とする子どもの保育
	平成30年8月7日(火) 10:00~12:30
講演	「障害児保育における個々の発達を促す生活と遊びの環境」 「障害のある子どもと保育者の関わり」
講師	京都文教短期大学 張 貞京 氏

1 講演要旨

保育所保育指針より一環境

- ・子ども自らが環境にかかわり、自発的に活動し、様々な経験を積んでいくことができるように。
- ・保育室は温かな親しみとくつろぎの場となるとともに、生き生きと活動できる場となるように。
- ・子どもが人と関わる力を育てていくために、子ども自らが周囲の子どもや大人と関わっていくことができるように。

生活と遊びの基盤となる環境

- ・落ち着いて安心できる環境
- ・わかりやすい環境
- ・気づくことを助ける環境
- ・興味が持てる環境
- ・見通しが持てる環境
- ・遊びの広がりをもてる環境
- ・余計な刺激のない環境

大人目線での環境構成になっていないか、確認を繰り返す。

障害のある子どもの発達を促す環境

- ・障害を理解し、発達を促すためには発達の道すじへの理解が基礎
- ・生活リズムを整え、身辺動作が出来るようにする環境
- ・遊びの楽しさを知る環境
- ・一人遊びが主であっても、他児に関心を持てる環境

環境設定の理由：環境として何が当たり前なのか、心地よいのか子どもには分からない。

発達障害の疑いのある子どもは、脳機能障害に加え、集団生活・家庭生活での空間、時間、人的環境との付き合い方が苦手。

今の環境を見直す

- ・空間的見直し
- ・保育の流れの見直し
- ・伝達は明確か
- ・物的環境の見直し

担任保育者としてのかかわり

- ・客観的な視点で子どもを見るように努める
- ・観察記録をとる
- ・安心する大人として、集団生活を送る上での安全基地
- ・障害のある子どもの気づきを用意する
- ・子どもの気づきを確かなものにし、その不安や葛藤を支える
- ・環境整備し、働きかけ、子ども自身の変化を観察しながら待つ
- ・他児との関係に注意し、豊かな経験ができるようにする。
- ・自分が発する言葉の影響に気づく
- ・子ども自身が気づいていない思い・願いに気づき、より良い姿になれるように援助できる存在になる

貴重なお話を聞かせて頂き、ありがとうございました。
今後の保育に生かしていきたいと思えます。

(記録 アスク向日保育園 白波瀬・冨尾)

